

**\* 日本製初の本格的望遠鏡 TAMAYA 経緯儀仮架台部品の製作**

アーカイブ室新聞の登場以前に天文情報センタープレハブ倉庫から TAMAYA & CO. GINZA TOKYO と刻印のある望遠鏡の一部(写真 1、2)を発見したことを多くの人に話した。これはおそらく Made in Japan の本格的望遠鏡と思われるもので、経緯儀タイプであった。



写真 1



写真 2

そしてこのことは天文月報に「初の Made in Japan の天文経緯儀望遠鏡」という記事にして投稿してある。発見されたのは望遠鏡のごく一部で、高度軸・水平軸の架台は廃棄されアマチュア天文家の手に渡り、2年前まで榛名山中にあったことが確認されている。また1875年製のトロートン・シムス経緯儀望遠鏡が発見された際、これを子午儀として仮の架台に載せて復元された(写真3)が、この望遠鏡が経緯儀式であったことが分かり、その高度軸のオリジナル架台が発見され、このトロートン・シムス望遠鏡はオリジナルの高度軸架台に載せかえられた(写真4)。



写真 3



写真 4

そこで不要になった子午儀として復元した架台に TAMAYA & CO. GINZA TOKYO の望遠鏡部分が仮に載せてあったその様子は写真 5、6 のように軸の径が合わなかった。このまま展示することは危険であった。そこで軸径を合わせるために、アダプターを工場に発注した。



写真 5



写真 6

そのアダプターは、4 月から実験工場に移籍した岩下君の最初の製品として完成した。そのアダプターを介して仮の子午儀の架台に載せかえられた姿が写真 7、8 である。

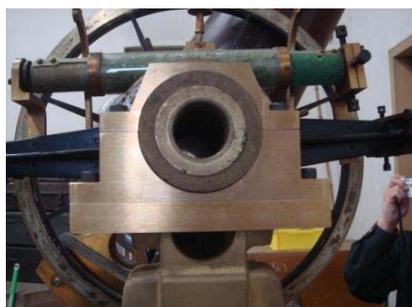


写真 7



写真 8

これで、日本初の本格的経緯儀天文望遠鏡は、仮の姿で展示できるようになった。この TAMAYA & CO. GINZA TOKYO の経緯儀望遠鏡は、トロートン・シムス経緯儀望遠鏡とパンベルヒ子午儀の機構をマージして設計、製作されたと思われる構造、機構をもっていた。その双方の外観図が下図 1、2 である。

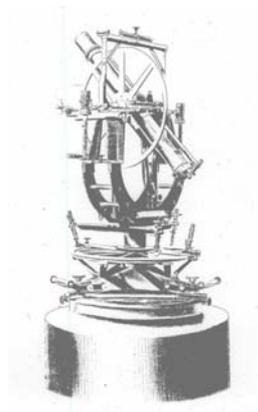


図 1



図 2